

株式会社タムラ製作所

2016年3月期 第2四半期決算概要

2015年11月11日



TAMURA

Your One and Only Company

1. 2016年3月期 第2四半期決算概要
2. 2016年3月期 通期業績予想
3. トピックス

1. 2016年3月期 第2四半期決算概要

損益計算書(要約)

- 売上高は微減収ながら営業利益・経常利益は増益
- 親会社株主帰属四半期純利益はやや減益(中国子会社の税金費用増加)

	[百万円]				
	14上	14下	15上	前年同期 増減額	前年同期 比
売上高	42,155	44,093	41,731	△423	99%
営業利益	1,812	2,217	1,948	136	108%
営業外損益	△92	162	△18	73	—
経常利益	1,719	2,379	1,929	210	112%
特別損益	△79	78	△78	0	—
税引前利益	1,640	2,457	1,851	210	113%
親会社株主帰属 四半期純利益	1,246	1,860	1,232	△14	99%

15上 期中平均実績為替レート \$1= 120円 87銭
 15上 期中平均社内為替レート \$1= 120円 85銭
 15上 期末日実績為替レート \$1= 119円 96銭
 15上 期首計画為替レート \$1= 120円

損益の増減分析【14上実績 vs 15上実績】

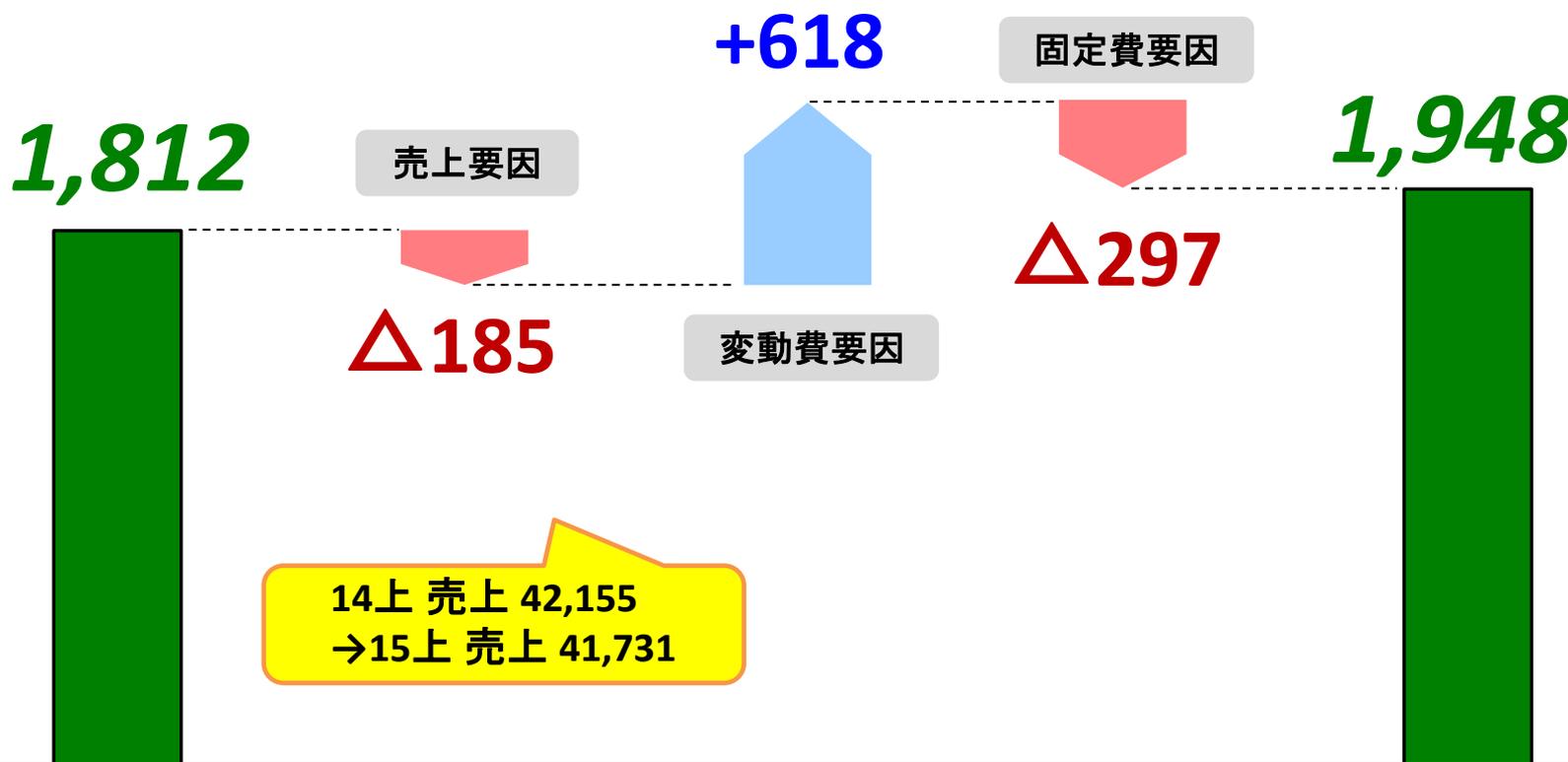
売上要因

ターゲット市場の伸長が力強さを欠き、売上減少に伴い減収

変動費要因

きめ細かな個別顧客対応や原価改善・管理の徹底により収益を確保

[百万円]



14上 売上 42,155
→15上 売上 41,731

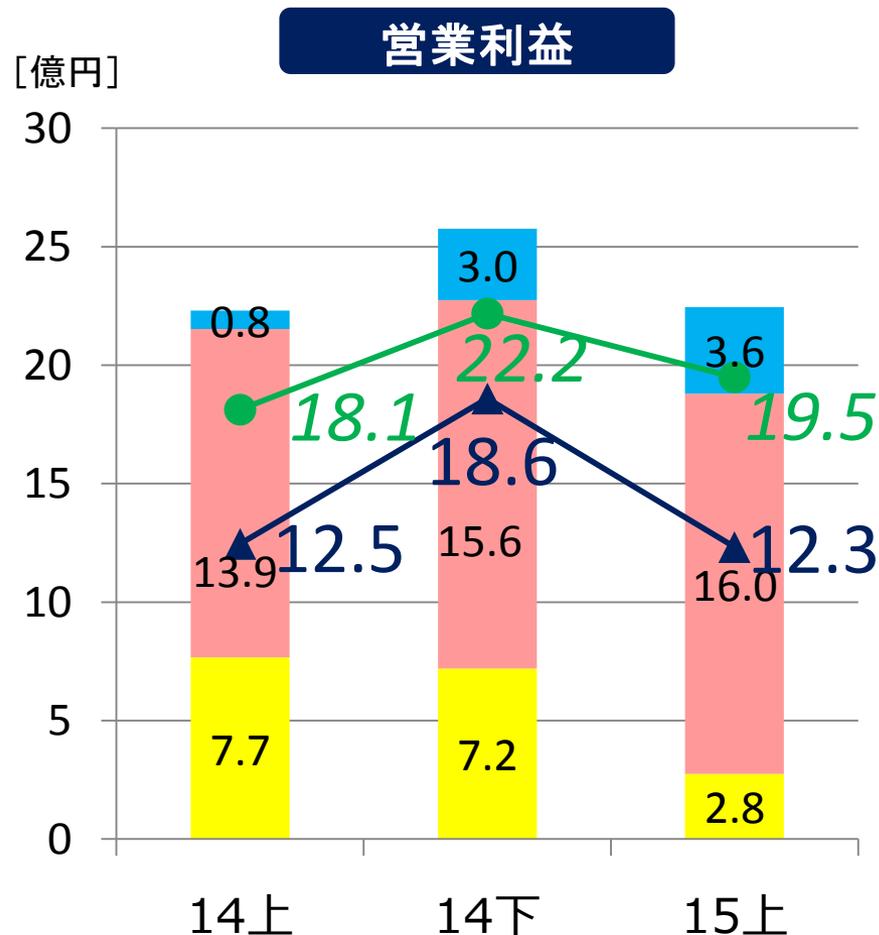
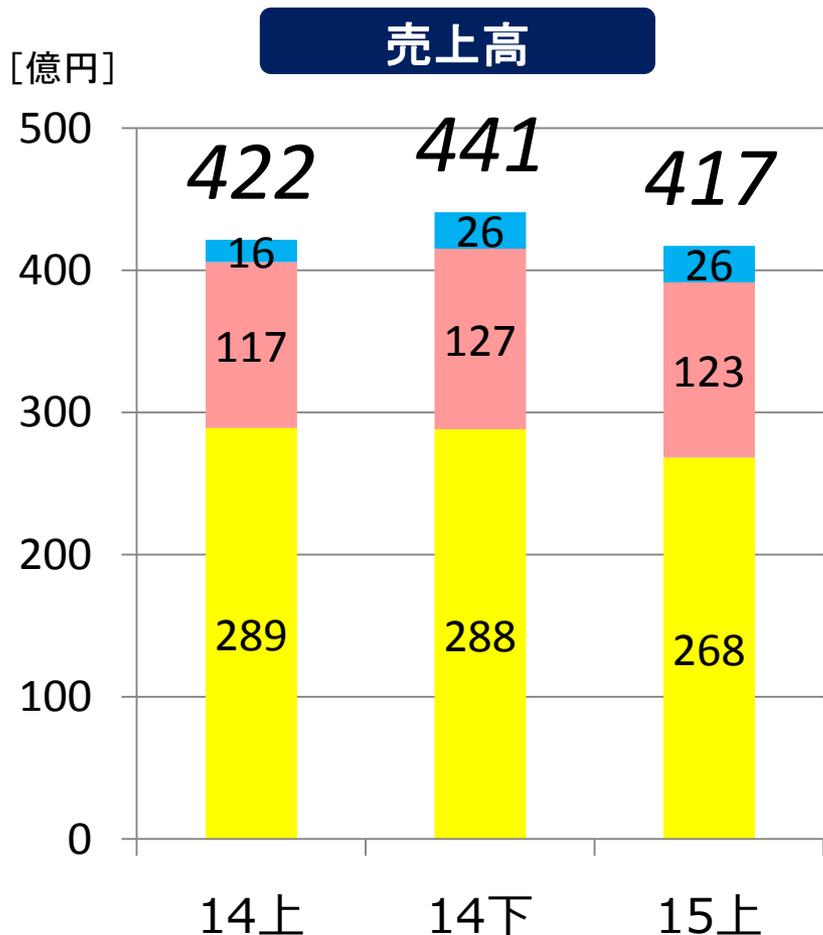
14上実績
営業利益

136百万円の増加

15上実績
営業利益

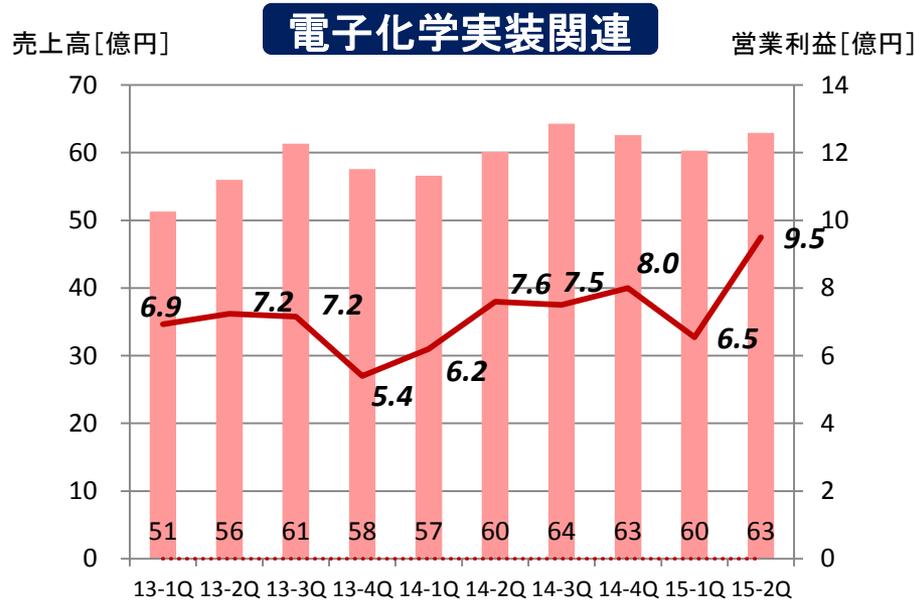
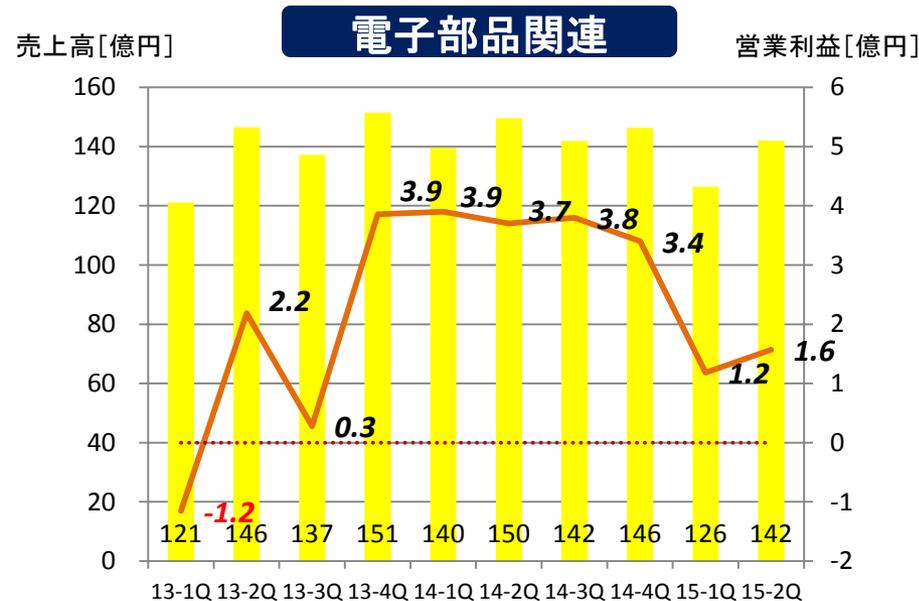
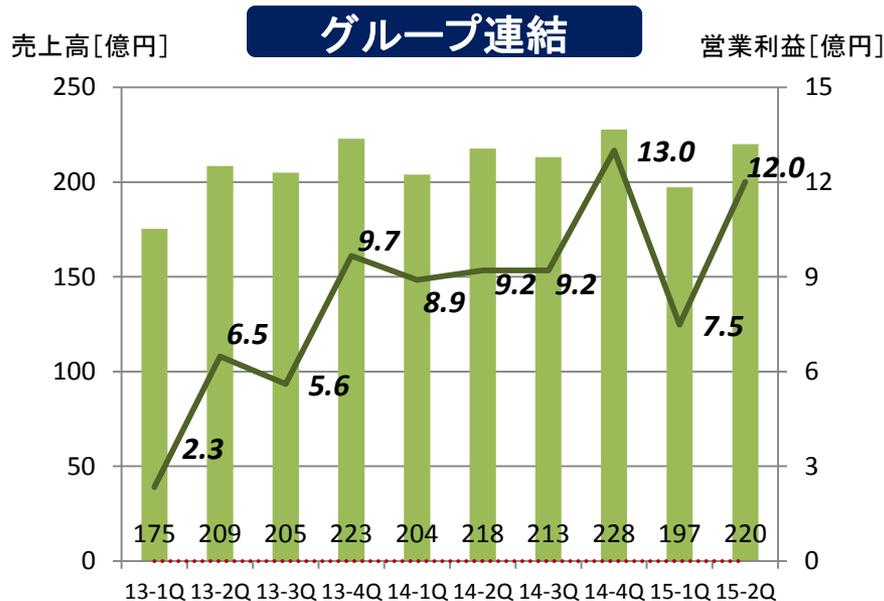
事業部門別の売上高・損益推移

- 電子部品：ターゲット市場の減速により減収減益
- 電子化学実装：戦略市場向け製品が堅調に推移
- 情報機器：放送機器、セキュリティ機器などが、市場ニーズの高まりと共に堅調に推移



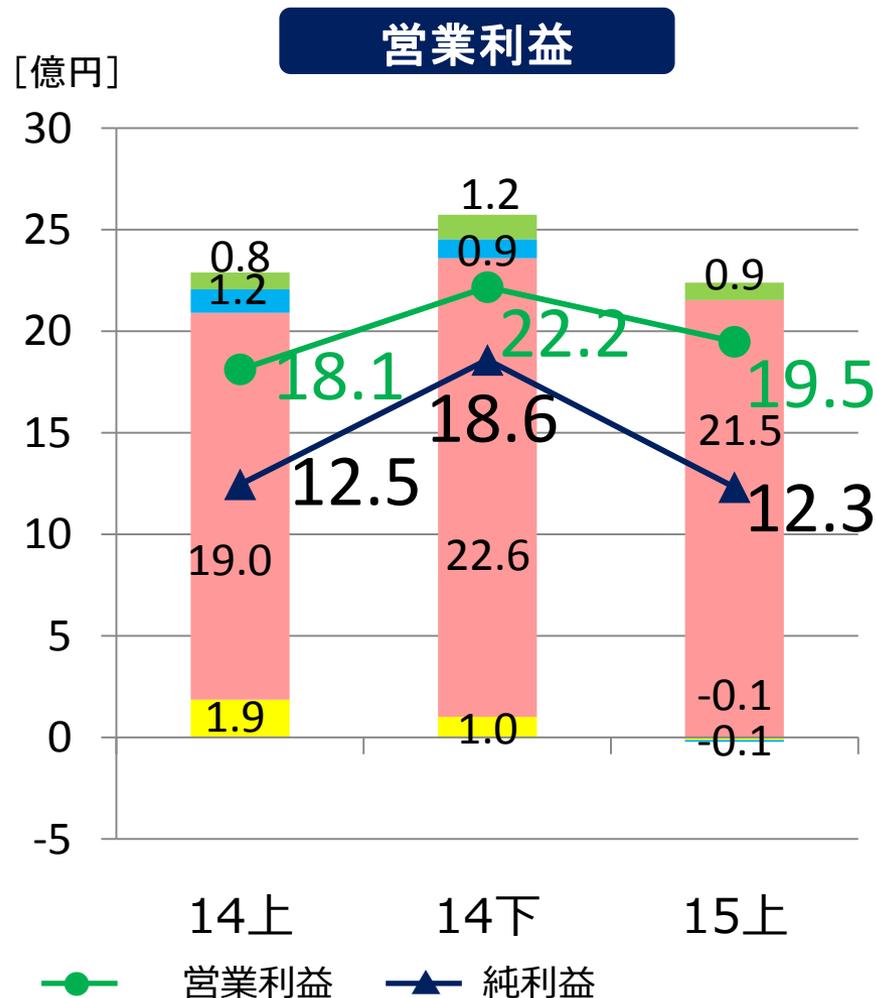
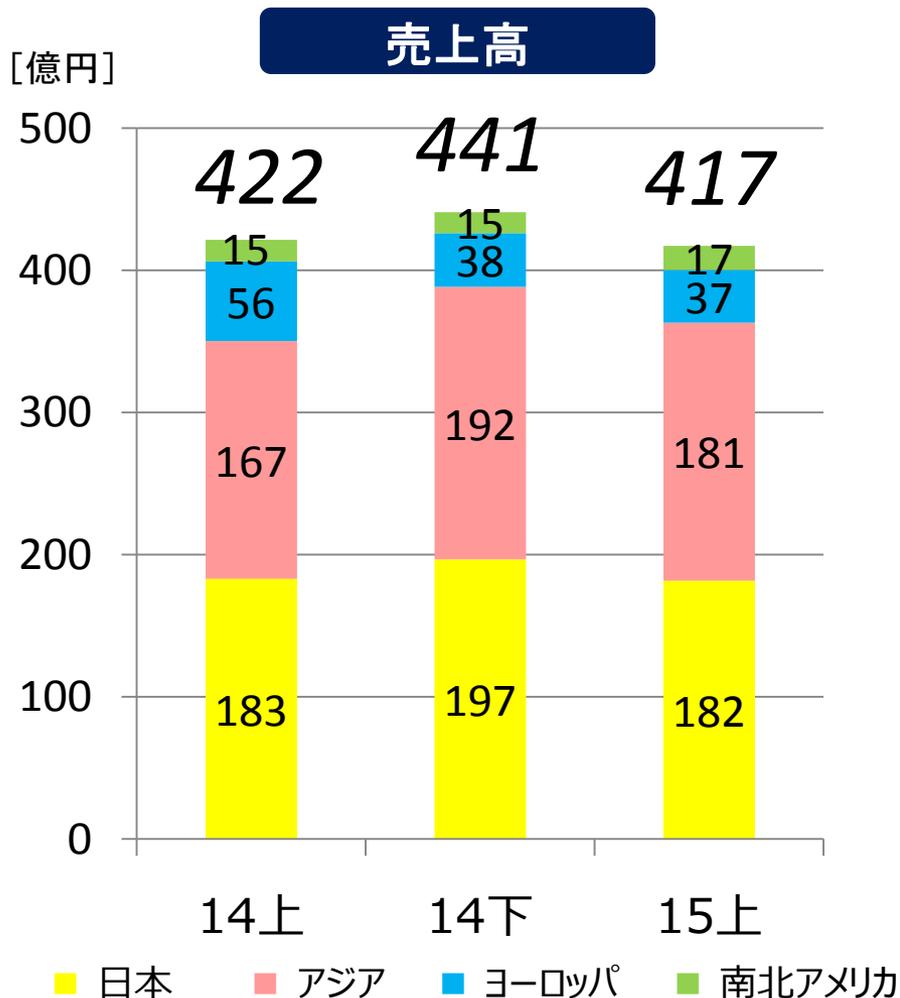
■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

事業部門別の売上高・損益(四半期推移)

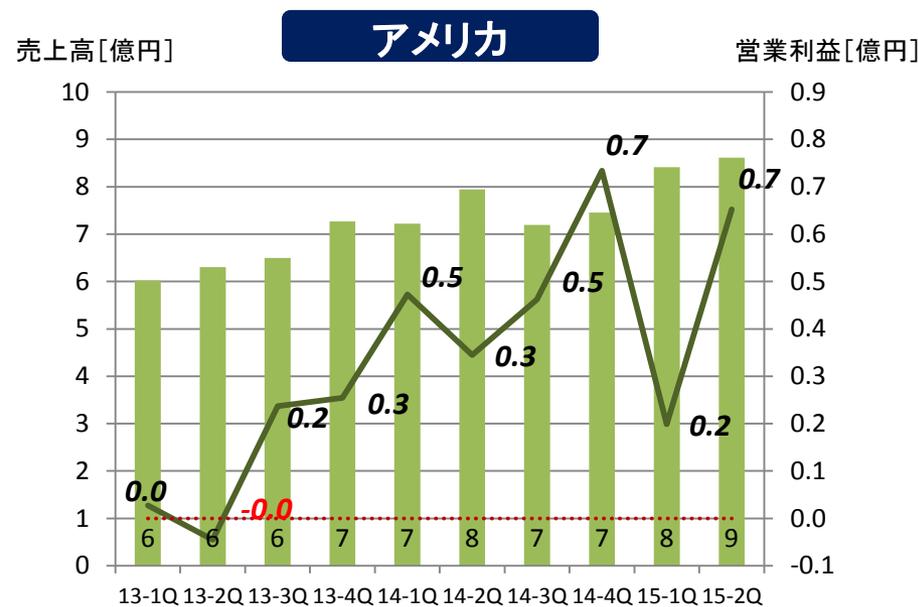
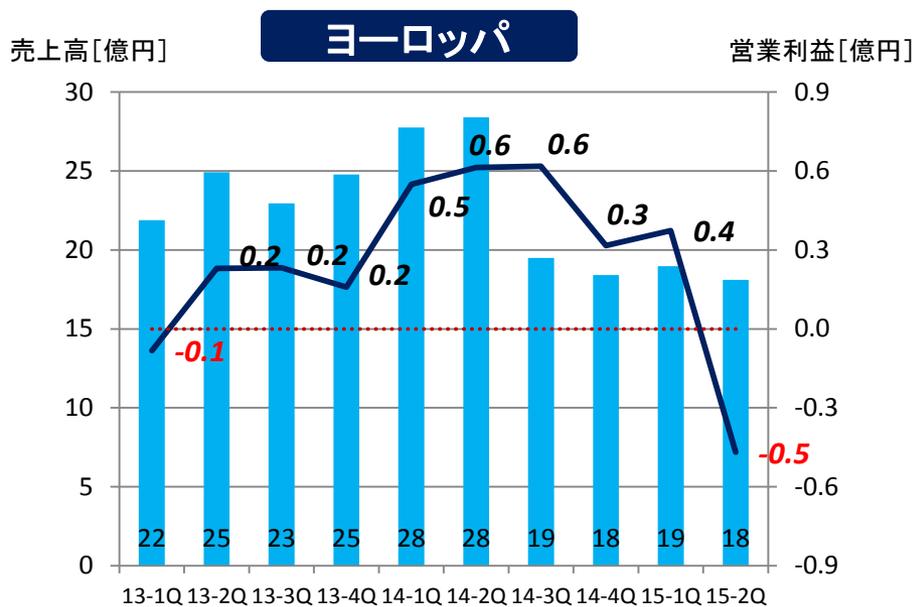
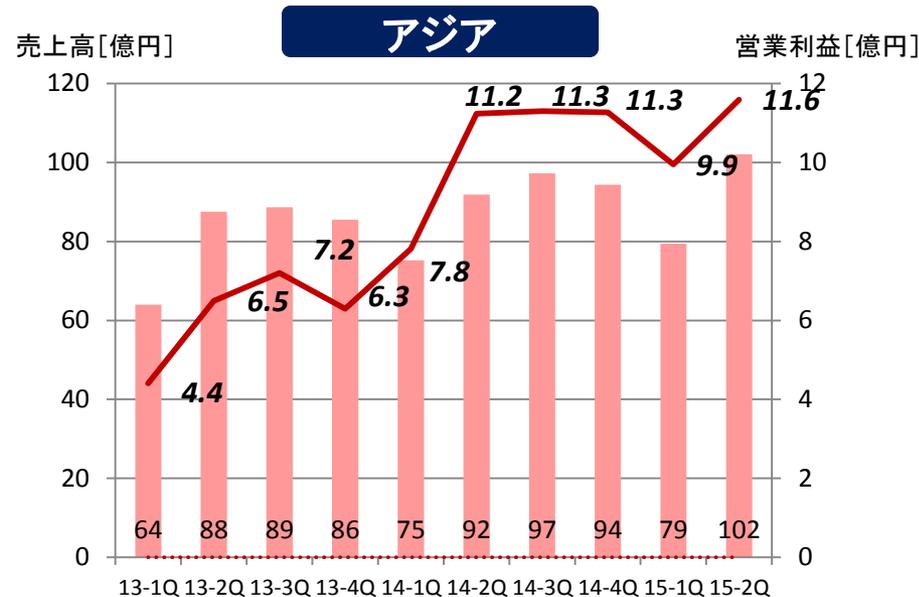


地域別の売上高・損益推移

- 日本：海外生産品の輸入販売において、円安により利益減少
- アジア：市場に不透明感が見られるが、生産・販売の両面でグループ業績を牽引
- 欧米：産業機械やエネルギー関連が低調



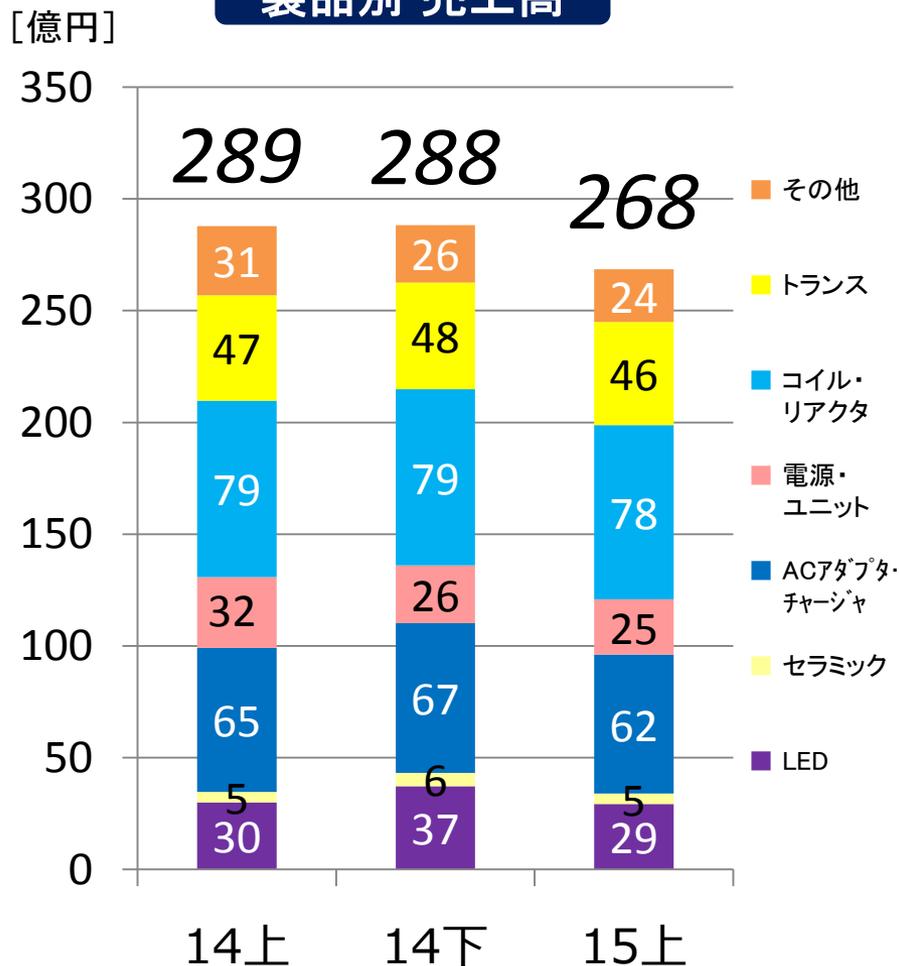
地域別の売上高・損益(四半期推移)



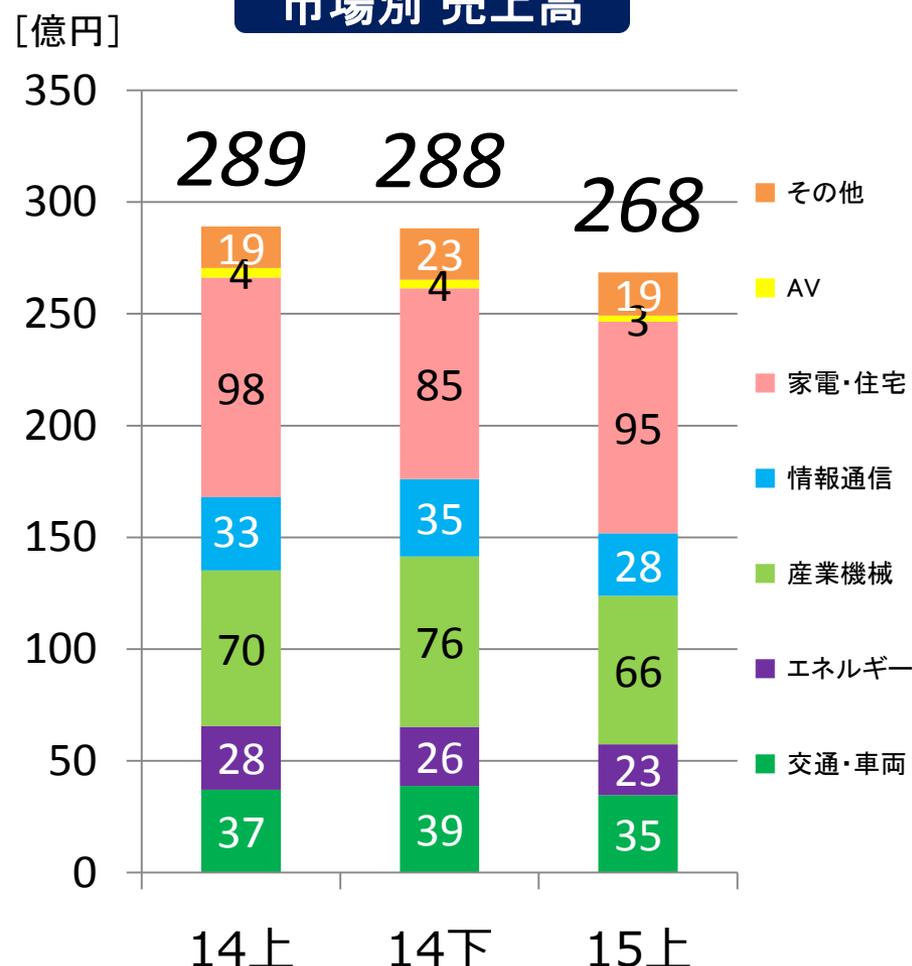
電子部品関連事業の売上高推移

- 産業機械やエネルギー関連は、中国景気の不透明感などを背景に低調に推移
- エアコン関連は、天候不順や個人消費の落ち込みで力強さを欠く
- エコカー関連は米国の好景気や原油安が逆風となり弱含みで推移

製品別 売上高

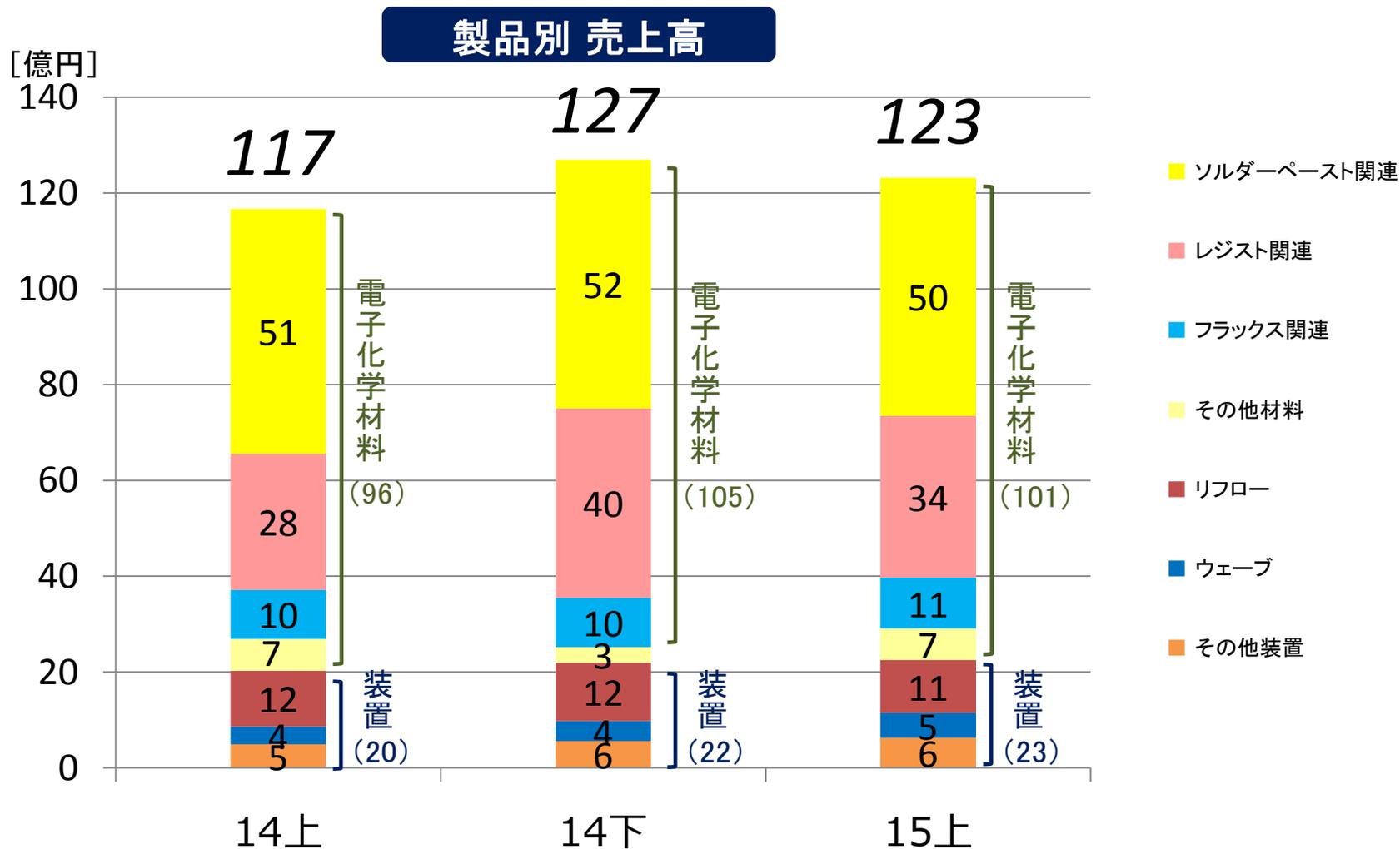


市場別 売上高



電子化学実装関連事業の売上高推移

- 電子化学事業は、車載市場やスマートフォン市場が堅調に推移する一方、PC市場は弱含みとなるが、生産工程の改善などにより収益性確保の努力を進める。
- 実装装置事業は、高まる省力化ニーズに応える製品を国内外で展開し、堅調に推移



貸借対照表(要約)

■ 総資産は8.5億円減少

■ 有利子負債は10.9億円減少。純資産は10.7億円増加

[百万円]

	14/9	15/3	15/9	対15/3	
流動資産	49,537	52,968	52,008	△959	
（現預金）	11,856	11,816	13,478	1,662	
（売上債権）	20,757	23,684	21,508	△2,176	※1
（棚卸資産）	14,133	14,411	14,462	50	
（その他流動資産）	2,789	3,055	2,559	△496	
固定資産	25,173	27,287	27,393	106	
（有形固定資産）	19,694	19,762	19,935	173	
（無形固定資産）	1,362	1,536	1,367	△169	
（投資、その他）	4,116	5,988	6,090	102	
資産合計	74,710	80,255	79,402	△853	
流動負債	23,557	23,427	25,540	2,112	※2
（仕入債務）	12,505	11,656	11,124	△531	
固定負債	19,034	18,663	14,628	△4,034	※3
〔有利子負債〕	22,681	22,610	21,518	△1,091	
負債計	42,591	42,091	40,168	△1,922	
純資産合計	32,118	38,164	39,233	1,069	※4
負債・純資産合計	74,710	80,255	79,402	△852	

■ 主な増減

※1 売上債権 △2,176

※2 流動負債 +2,112

一年内返済長期借入金 +3,560
（返済△436、長期からの振替+3,996）

※3 固定負債 △4,034

長期借入金 △3,996（短期への振替）

※4 純資産 +1,069

利益剰余金 +916
（親会社純利益+1,232、配当△327
会計基準改正+12）

キャッシュフロー(要約)

- 営業CF: 売上債権回収進みキャッシュ創出力増加
- 投資CF: 例年並み投資レベル
- 財務CF: 有利子負債削減に資金仕向け

	14上	14下	15上	[百万円] 前年同期 増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,116	1,016	4,492	2,376
投資活動によるキャッシュフロー	△1,311	△577	△974	337
フリーキャッシュフロー	804	440	3,517	2,713
財務活動によるキャッシュフロー	△752	△1,087	△1,641	△888
キャッシュの増減	△298	15	1,664	1,963
キャッシュの残高	11,675	11,689	13,354	1,679

2. 2016年3月期 通期業績予想

- 第2四半期累計期間における実績及び今後の見通しを考慮して、
2015年5月8日に公表した通期業績予想の
売上高、営業利益、経常利益、親会社株主帰属当期純利益をそれぞれ下方修正

[百万円]

	FY2014 通期 実績	FY2015 上期 実績	FY2015 下期 修正予想	FY2015 通期 修正予想	対前年 増減額	前期比	参考) FY2015 通期 期首予想
売上高	86,248	41,731	43,269	85,000	△1,248	99%	88,000
営業利益	4,029	1,948	2,452	4,400	371	109%	5,400
経常利益	4,098	1,929	2,471	4,400	302	107%	5,400
親会社株主帰属 当期純利益	3,106	1,232	1,968	3,200	94	103%	4,000
ROE	8.9%	-	-	8.1%	-	-	10.1%

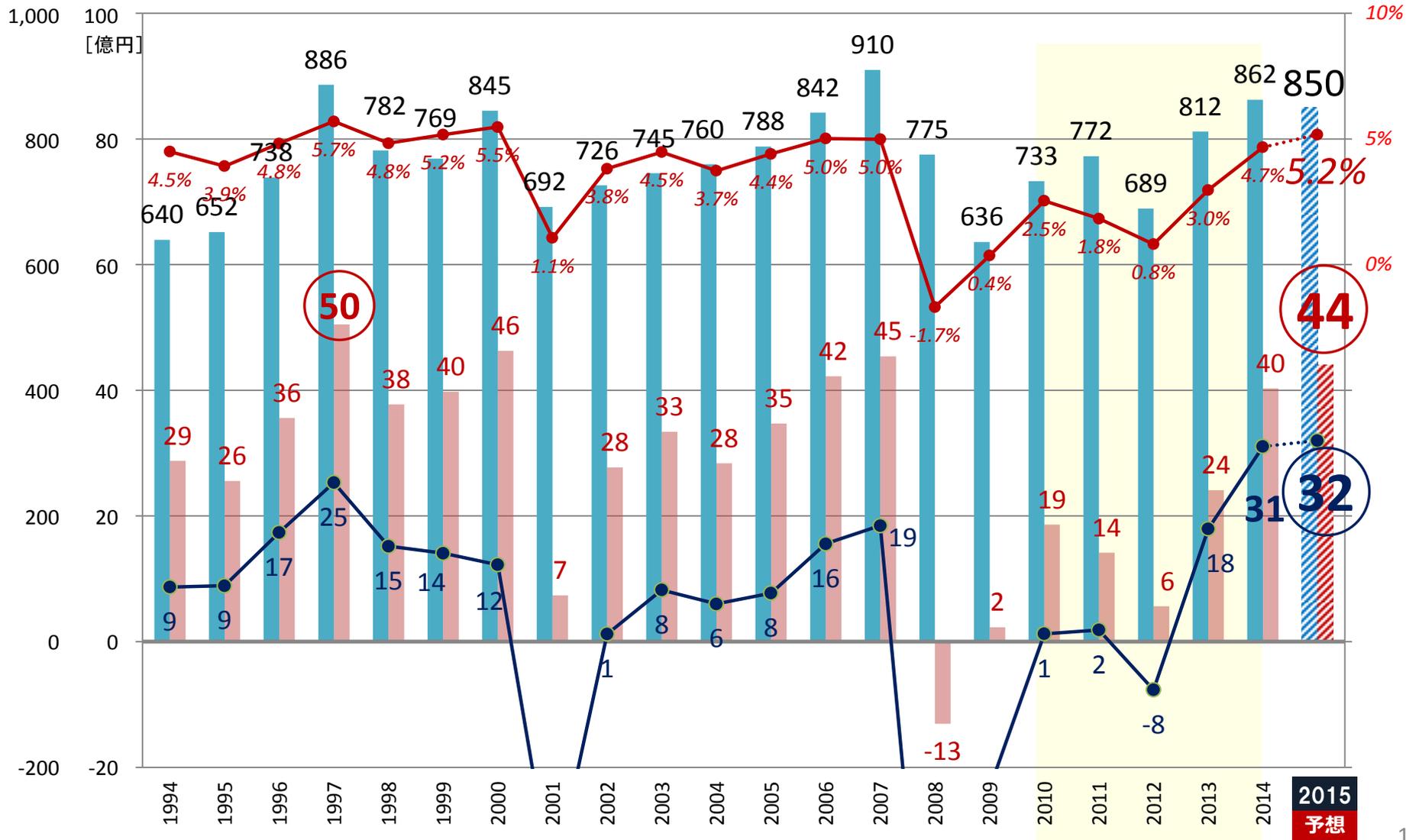
15下 計画為替レート

\$1= 120 円

連結決算の推移

営業利益の過去最高（1997年度）更新は来期以降へ持ち越しながら
前期比**9%**増加、純利益は**二期連続の最高益更新**を目指します。

売上高 営業損益
純損益



私たちは、創業の原点に立ち返り、2015年度を最終年度とする第10次中期経営計画“Biltrite Tamura”を推進中です。

■ 健全な経営体質を作る

- ✓ 売上重視から利益重視への意識改革
- ✓ 適正な「つなぎ利益」の確保

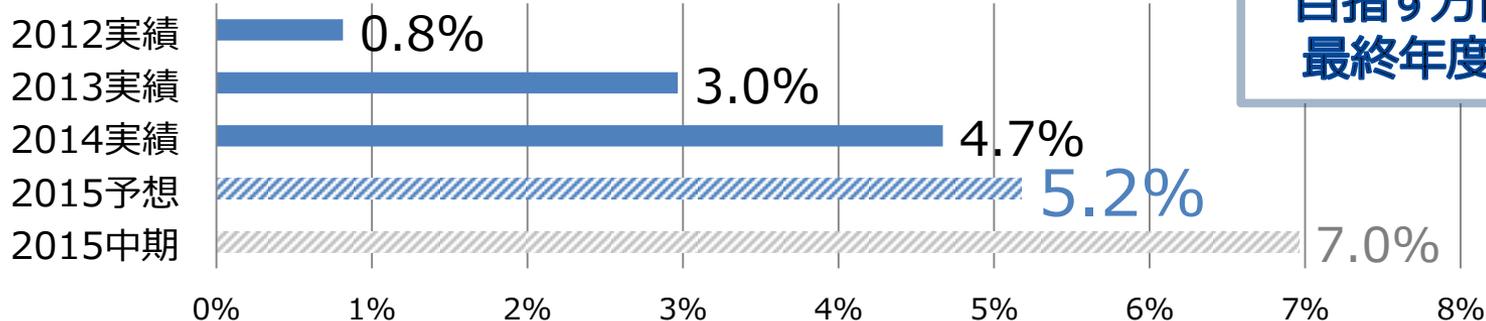
■ 最適なグローバル体制を作る

- ✓ グローバル労務費・経費の最適配分
- ✓ ナショナルスタッフの活躍推進

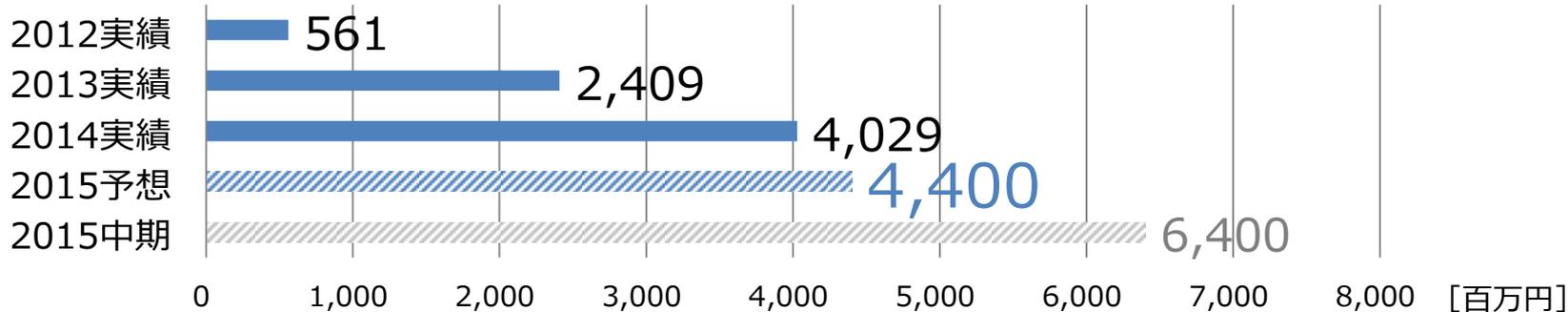
■ 立派な製品を作る

- ✓ ナンバーワン商品・オンリーワン商品の強化
- ✓ 新規・戦略事業の投資回収

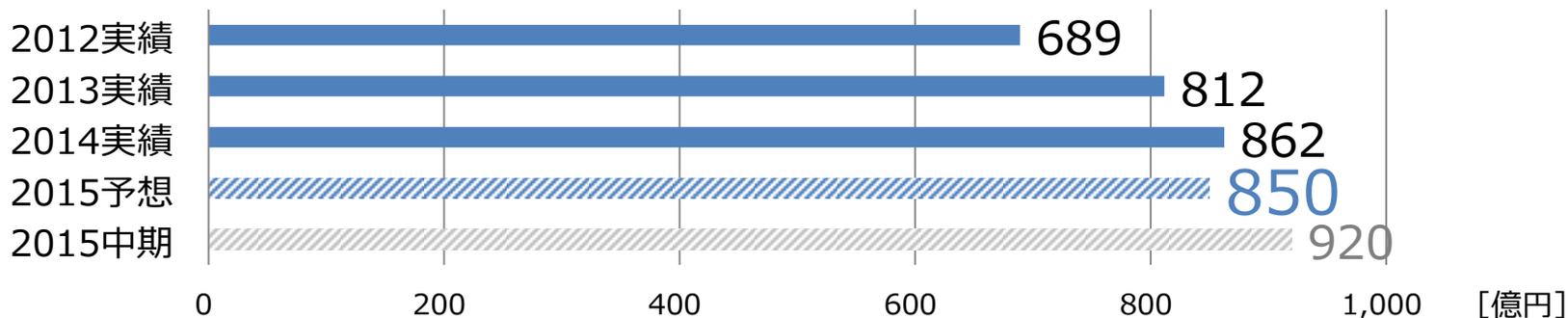
■ 営業利益率



■ 営業利益



■ 売上高



■ 次期中期計画に向けた課題と指針

① 現中期計画指針の、一層の徹底

- 健全な経営体質を作る
- 最適なグローバル体制を作る
- 立派な製品を作る

【反省】 中期最終年度は戦略製品の売上低調で失速

② 現中期経営計画の基本指針を継承しつつ

「立派な製品を作り、かつ売り切る！」

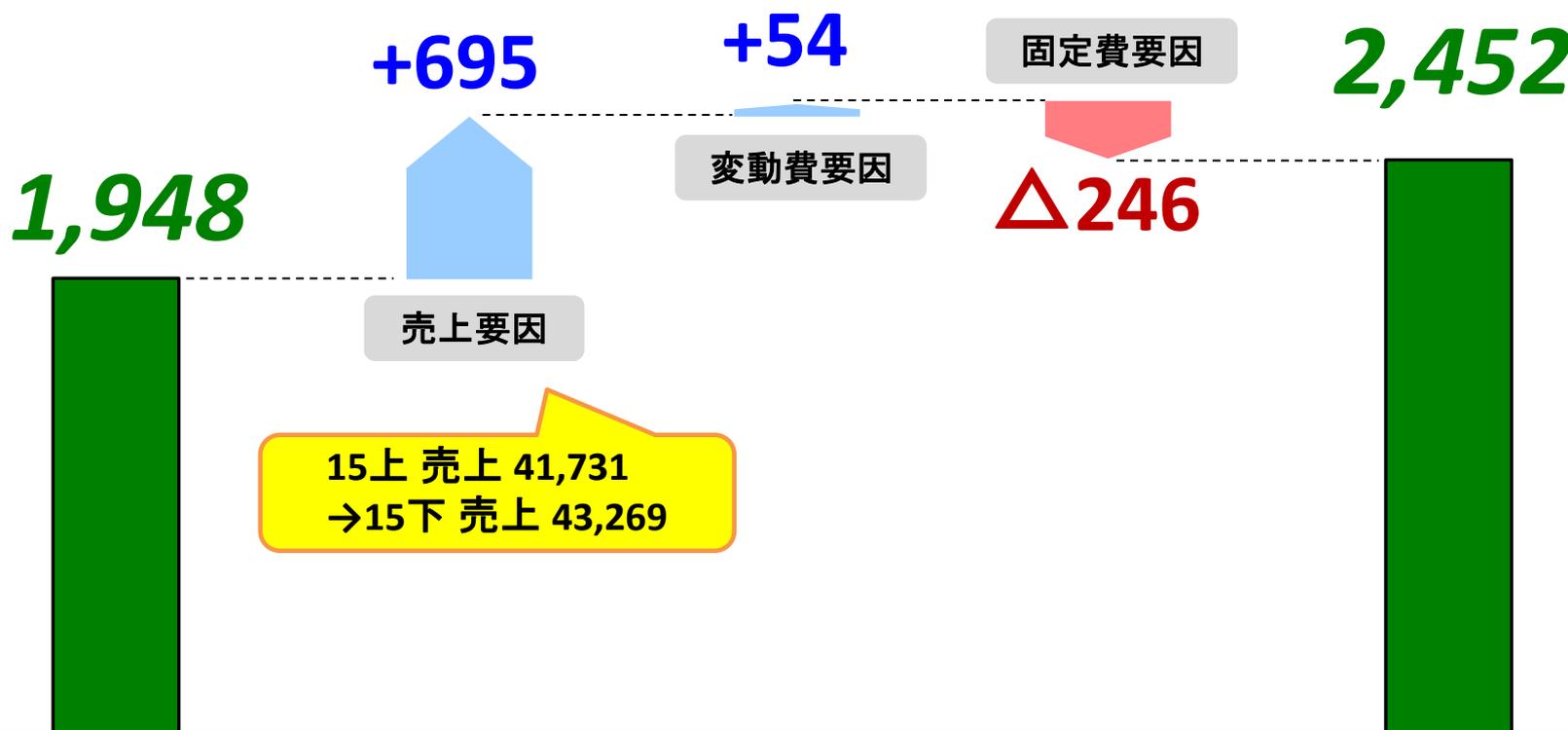
ことを次期中期計画の課題として、2015年下期から助走を始めます。

損益見通し【15上実績 vs 15下予想】

売上要因

下期はエコカー向け電子部品のモデルチェンジに伴う量産開始、スマートフォン向け電子化学材料の量産などによる増収で利益拡大を目指す

[百万円]



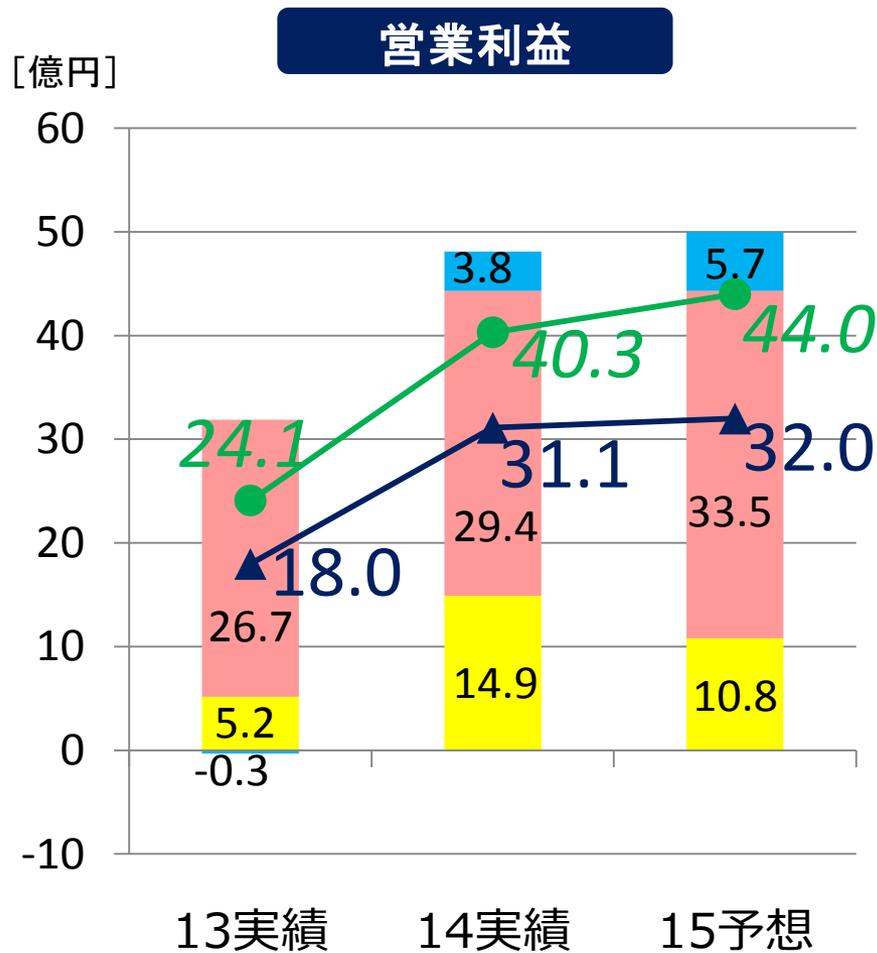
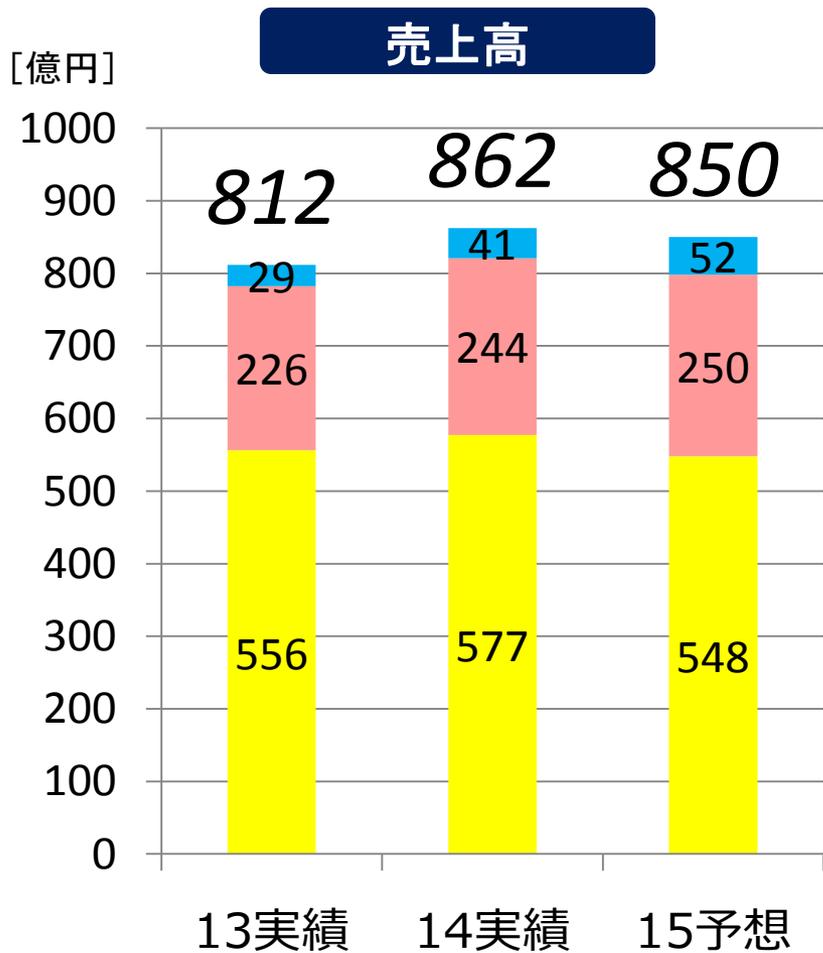
15上実績
営業利益

504百万円の増加

15下予想
営業利益

事業部門別の売上高・損益見通し(年次)

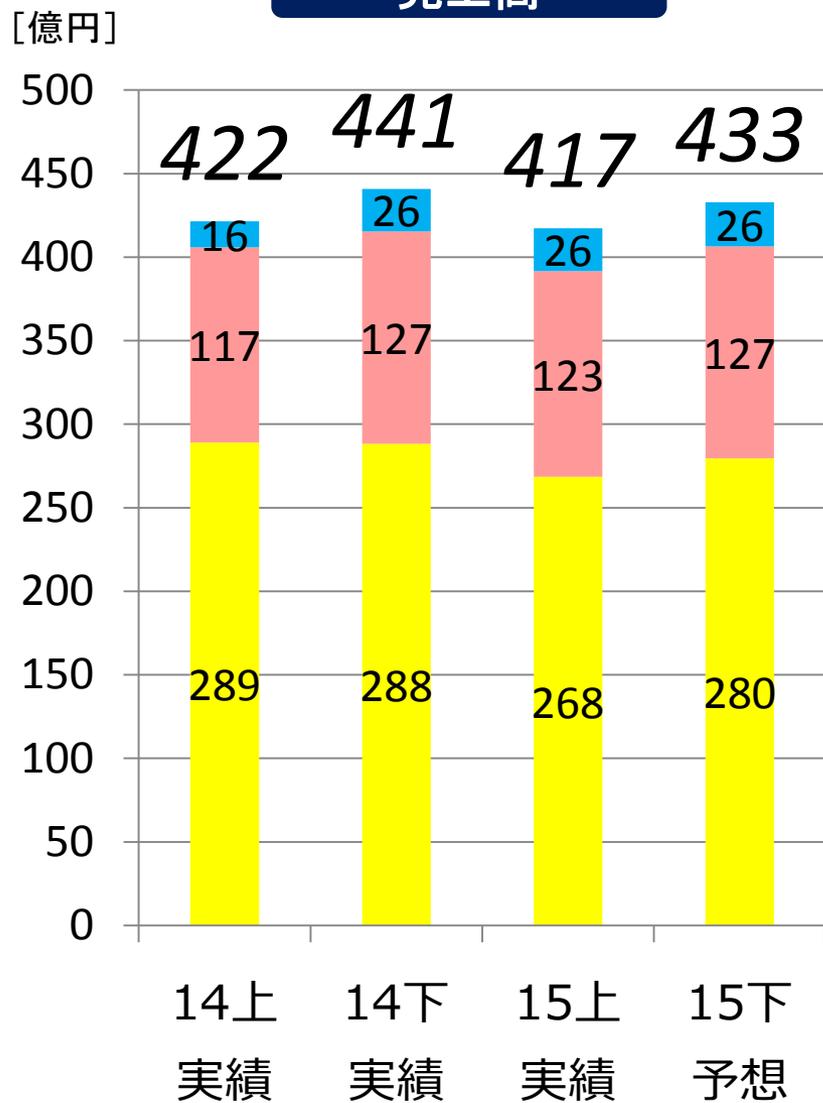
- 電子部品：下期はエコカー向け電子部品の量産などで売上拡大を見込む
- 電子化学実装：スマートフォン・車載などのターゲット市場の売上を拡大
- 情報機器：放送機器、セキュリティ機器などの好調な受注が継続



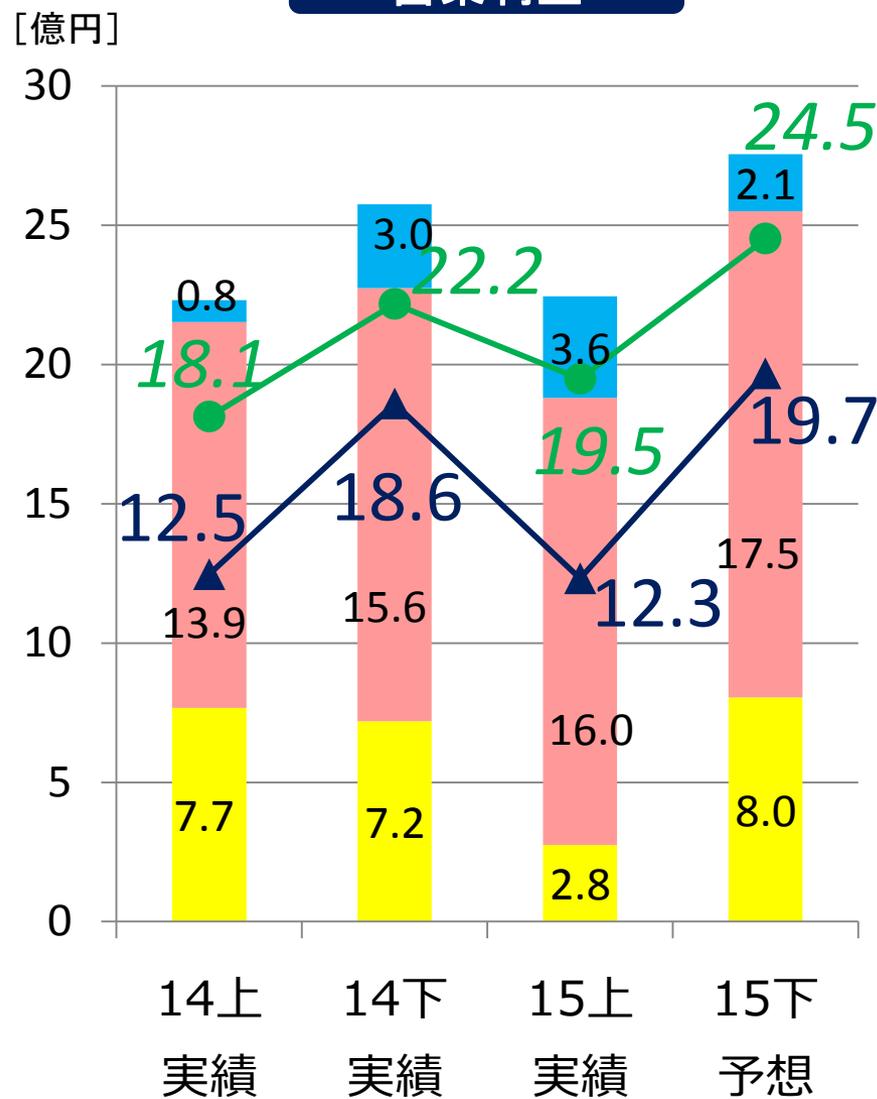
■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

事業部門別の売上高・損益見通し(半期)

売上高



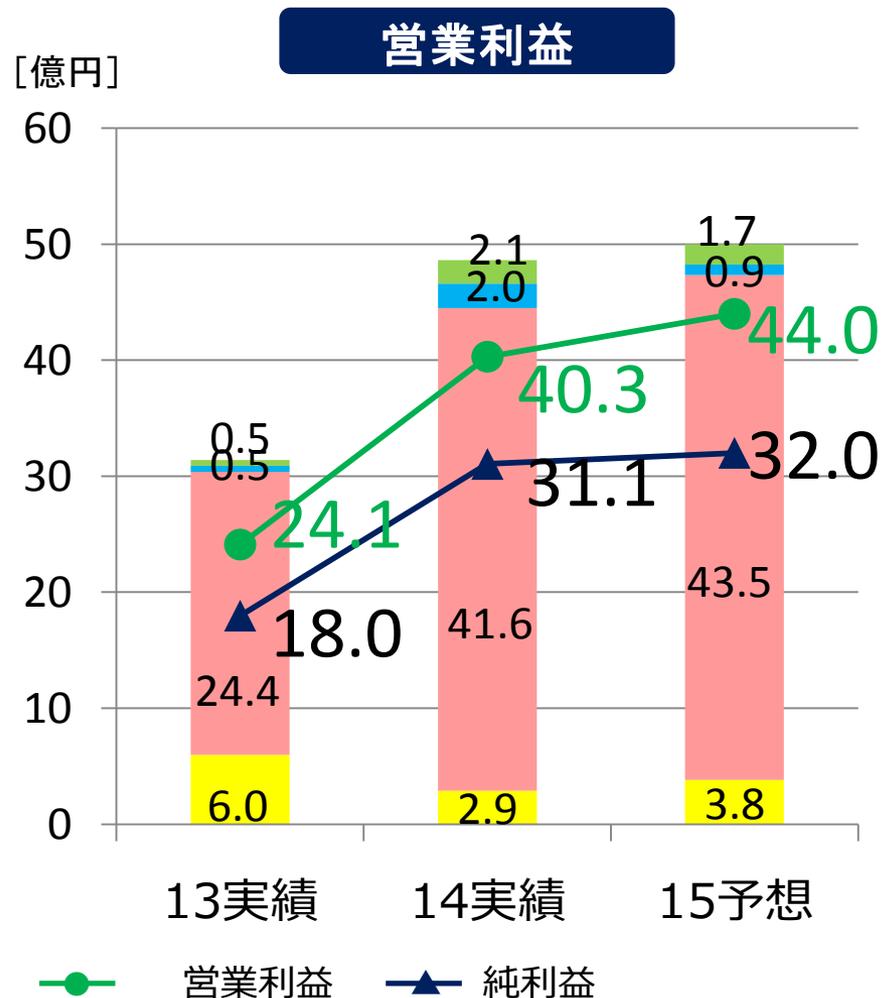
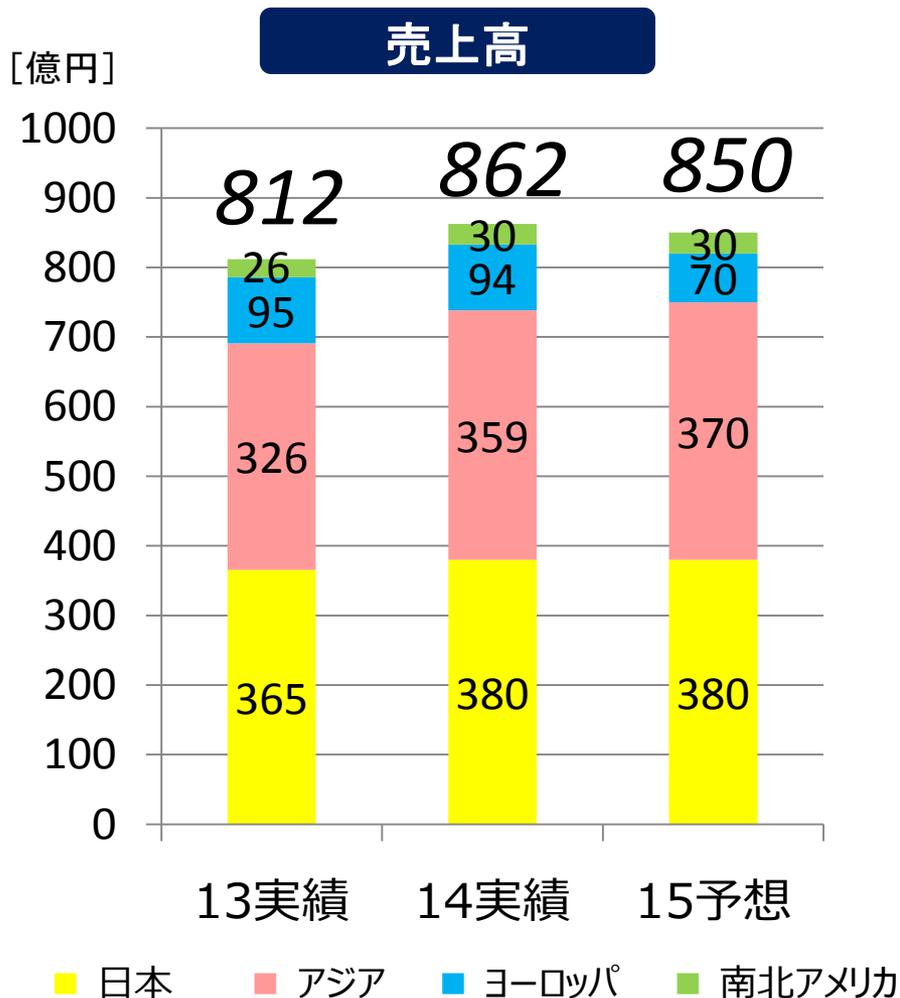
営業利益



■ 電子部品関連事業
 ■ 電子化学実装関連事業
 ■ 情報機器関連事業
 ● 営業利益
 ▲ 純利益

地域別の売上高・損益見通し

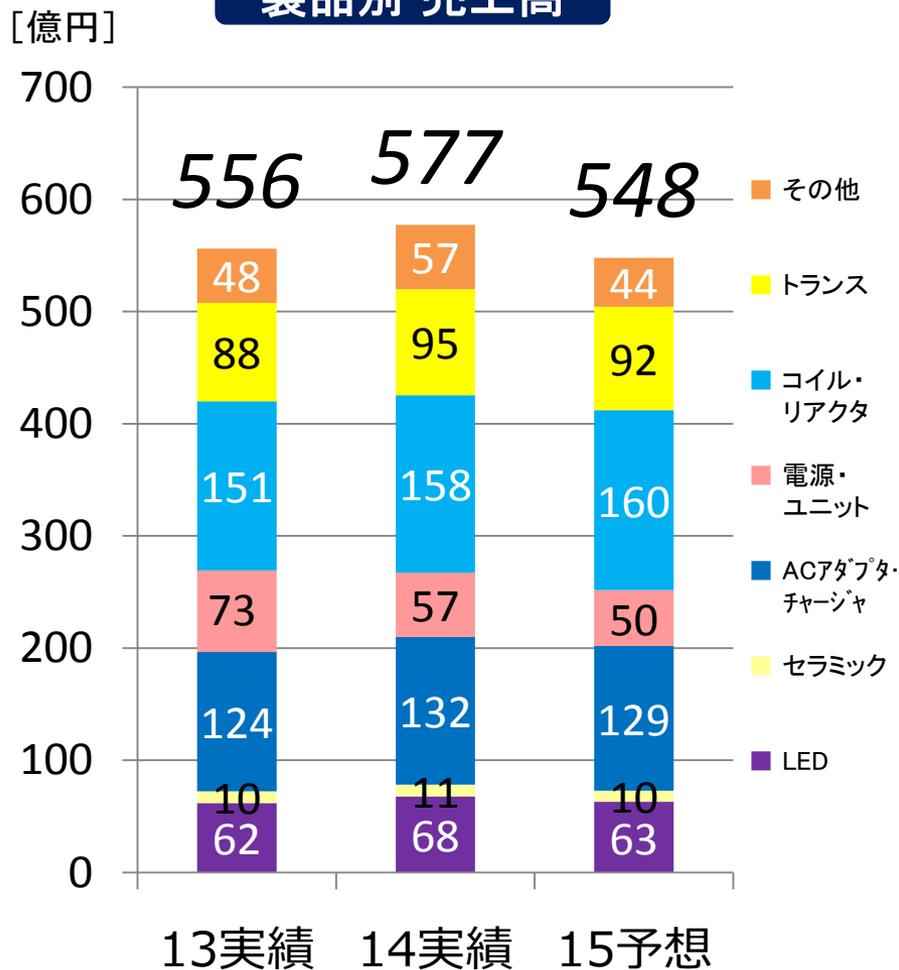
- 日本：きめ細やかな顧客対応で為替影響を最小化
- アジア：労働力の最適配置や生産革新の取り組みで収益確保を目指す
- 欧米：販売・生産体制を見直しを行い、利益体質への転換を図る



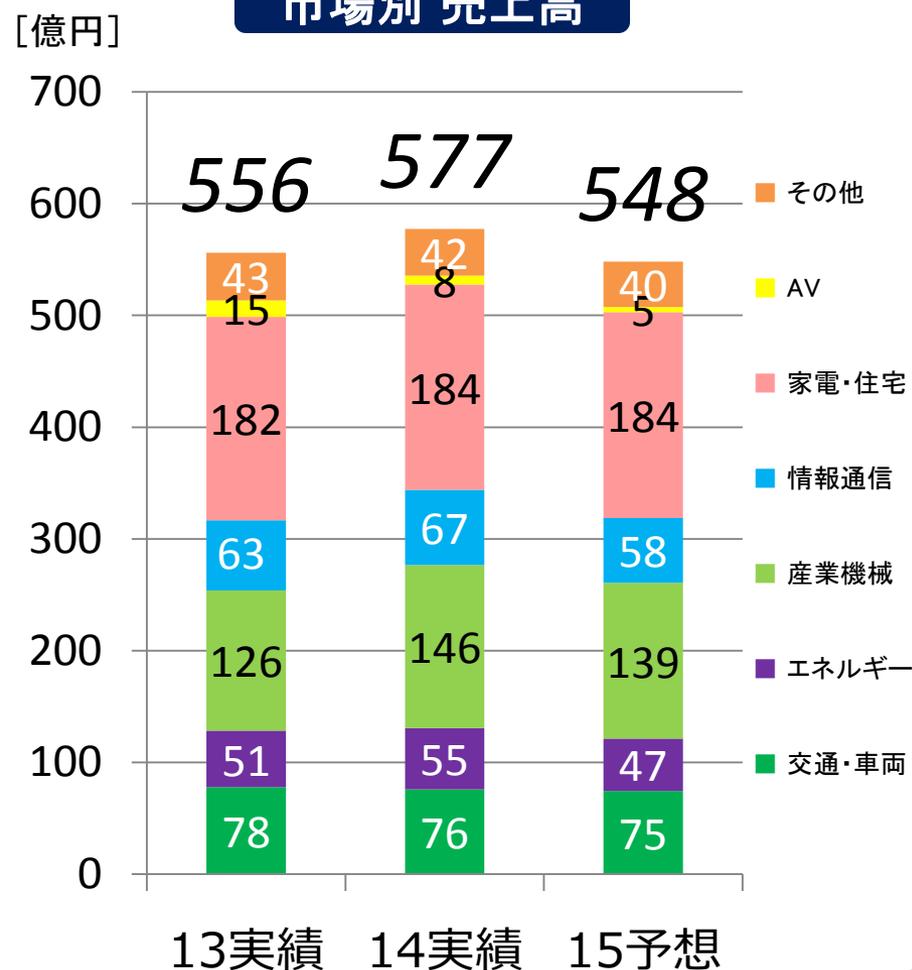
電子部品関連事業の見通し

- 中国景気の減速や欧州市場の不透明感などを背景に、産業機械やエネルギー関連は弱含みの推移を予想
- 上期減速したエコカー関連は、下期より車載用リアクタの新モデル量産で拡大を見込む

製品別 売上高

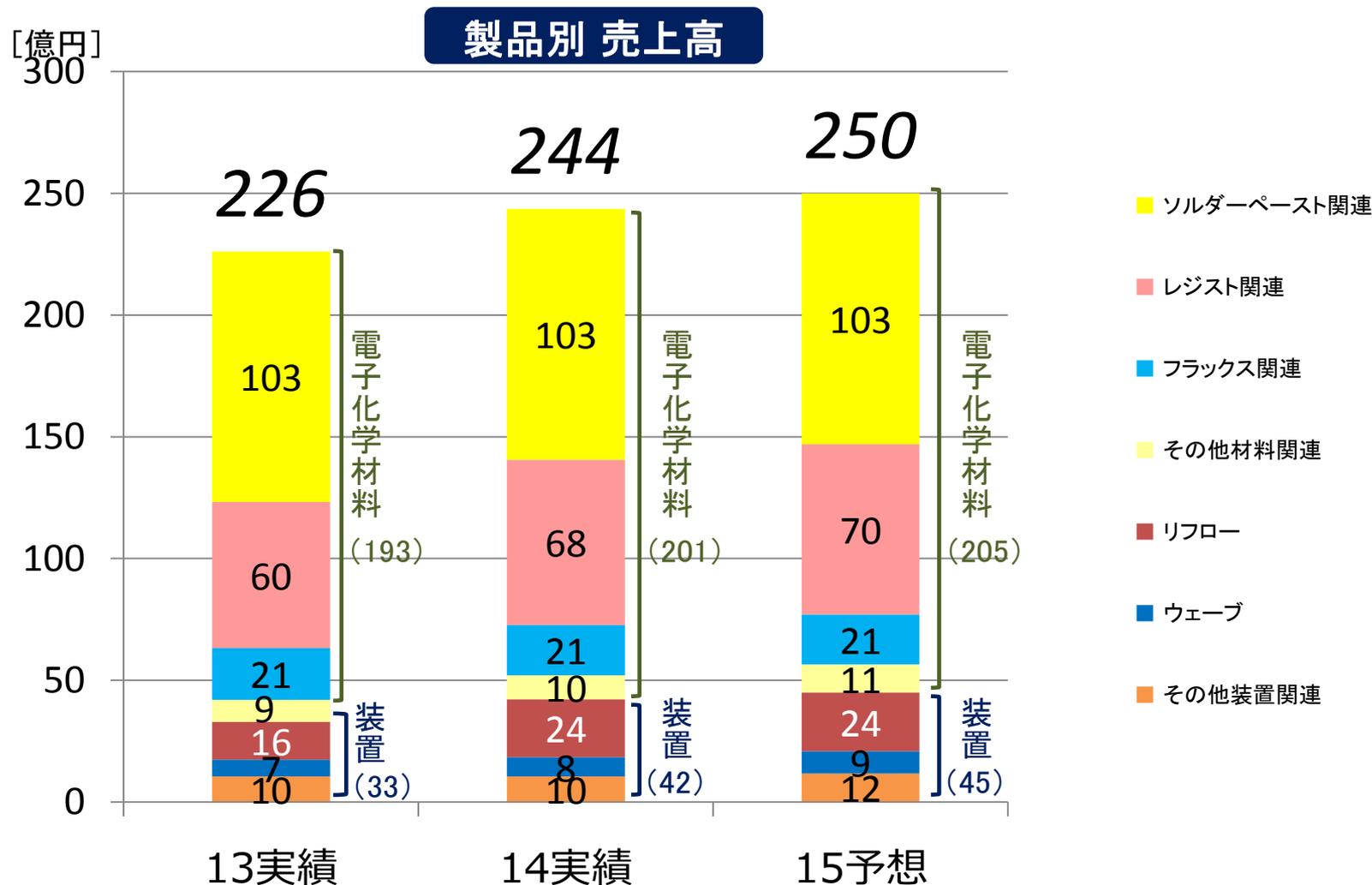


市場別 売上高



電子化学実装関連事業の見通し

- 電子化学事業は、スマートフォンや車載などのターゲット市場向けの売上拡大を目指す。市場鈍化に伴い拡大ペースは期初予想を下回ることを予想
- 実装装置事業は、引き続き市場ニーズを取り込み堅調な推移を見込む



3. トピックス

■ 酸化ガリウム関連開発の今後の展開について

タムラグループでは、酸化ガリウム基板の開発を起点に、未来製品開発に取り組んでいます。今後の展開を見据え、以下の体制で開発を進めてまいります。

酸化ガリウムLED

新規開発はホールド

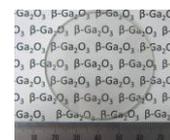
市場の成長性が高く、差別化・高付加価値ビジネスへの展開が見込める分野へタムラの経営資源を集中

パワーデバイス向け
エピウエハ

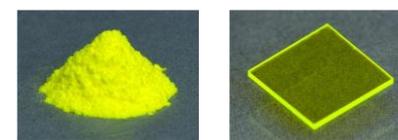
(株)ノベルクリスタルテクノ
ロジーで開発・製造・販売

- タムラ製作所からのカーブアウトベンチャーを設立
- 外部の資本を積極的に取り込み、独立した経営陣でスピーディーな開発、事業化を推進
- 市場の本格化は2020年以降

酸化ガリウム基板



YAG単結晶蛍光体



(株)タムラ製作所で開発・製造・販売

- YAG単結晶蛍光体は、レーザーヘッドライトなどの超高輝度製品への応用、および(株)光波との連携による高輝度光源モジュールとしての付加価値ビジネスへの展開を期待。
- 早期事業化し、開発費用の回収を目指す。
- 酸化ガリウム基板は助成金などを活用しタムラで開発

■ 次世代パワーデバイス材料、酸化ガリウムエピウエハの開発、製造・販売をする (株)ノベルクリスタルテクノロジーを設立

- 情報通信研究機構(NICT)、東京農工大学、(株)タムラ製作所らの研究チームは、次世代パワーデバイス材料として有望な酸化ガリウムエピウエハの開発に成功しました(図1)。
- 実用化されると、6,000Vを超える極めて高い耐圧を有しながら、低損失性を併せ持ったダイオードやトランジスタを実現できる可能性があり、電気自動車、電車の電源や送電システムシステムの設計に大きな変革をもたらすことが期待されます。
- これらの成果を事業化するため、タムラ製作所と研究者などの個人投資家の共同出資により株式会社ノベルクリスタルテクノロジーを設立いたしました。外部の資本を積極的に取り込み、独立した経営陣によるスピーディーな開発、事業化を推進していくため、タムラ製作所からのカーブアウト(技術切り出し)の形態を採用しています。
- ノベルクリスタルテクノロジーはNICT技術移転ベンチャーとして、NICTから知的財産の技術移転を受けて事業を行います。今後成長が見込まれるパワーエレクトロニクスに向け、大学・研究機関・メーカーなどへの供給を行います
- ノベルクリスタルテクノロジーは、本格的な市場の立ち上がり時期として2020年頃を想定しており、2016年度6,000万円、2020年度7億円、2025年度80億円の売上げを目標としています。当面は研究開発向けの製品を出荷しながら、低コスト・大口径ウエハの量産技術の開発を進めます。

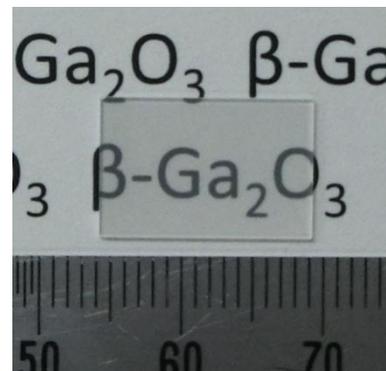
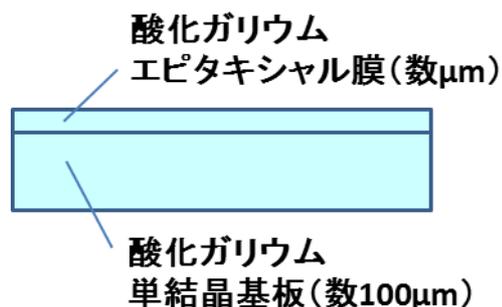
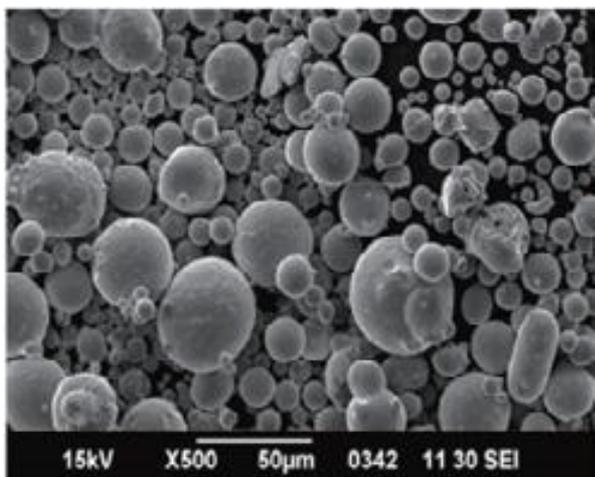


図1 酸化ガリウムエピウエハの断面構造と写真

■ 2015年12月に自社開発の圧粉コアを使用した新規採用の車載用リアクタの量産をスタート

- 2014年11月に外部調達のコア材ではなく、自社のコア材をつかったリップルノイズ除去用の車載リアクタの新規採用・量産をスタートいたしました。
- 自社開発コアの場合、コア材の形状を変更することができ、メーカー側の設計の自由度があがる点と、コア材から全てを手掛けることにより性能向上が実現できる点を、お客様に提案しております。
- このたび実績が評価され、リップルノイズ除去としての用途以外でも、自社のコア材をつかった車載用リアクタが採用されました。2015年12月より量産開始を予定しています。



コア材の原料粉末



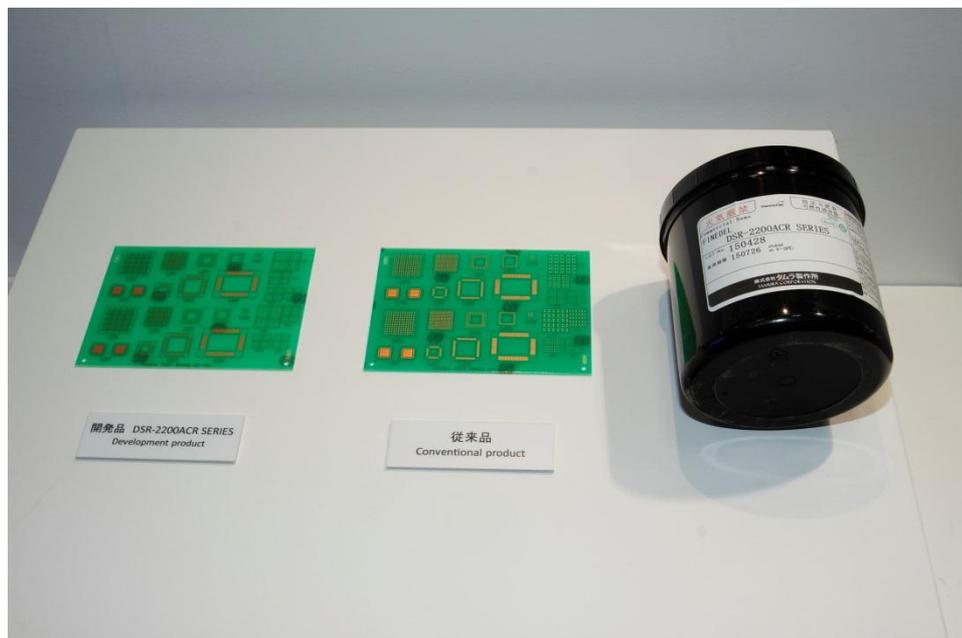
UIコア材



EEコア材

■ Δ (デルタ)T=165°Cに対応した車載向けソルダーレジストを開発

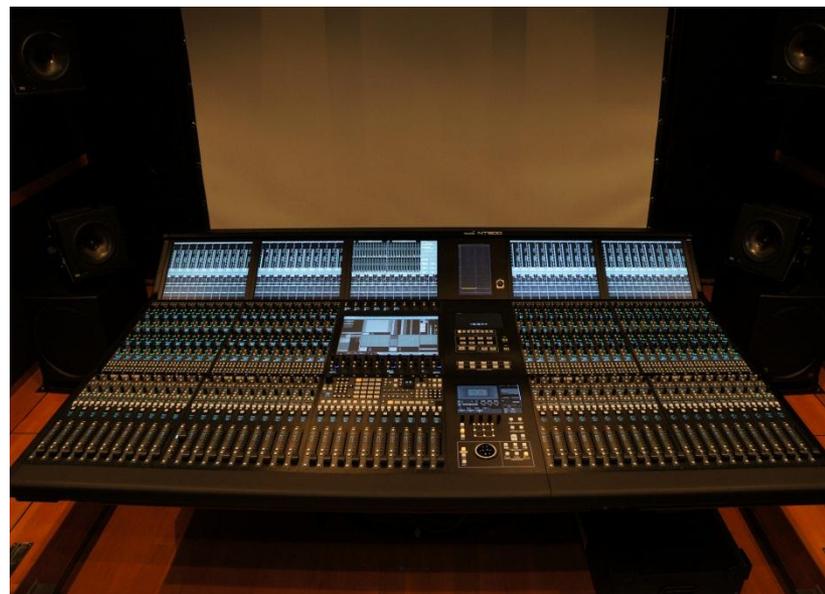
- マイナス40°Cからプラス125°Cまでの温度範囲に対応した車載用のソルダーレジストを開発しました。
- 現在、マイナス35°Cからプラス110°Cの温度範囲のソルダーレジストを市場に供給中ですが、2017年にはさらなる高い温度範囲に対応する需要が車載の分野の化学材料では求められると考え、広くサンプルワークを開始しております。
- 機電一体化への対応として2020年にマイナス40°C～プラス150°Cの温度範囲(Δ T=190°C)のソルダーレジストを開発する予定です。



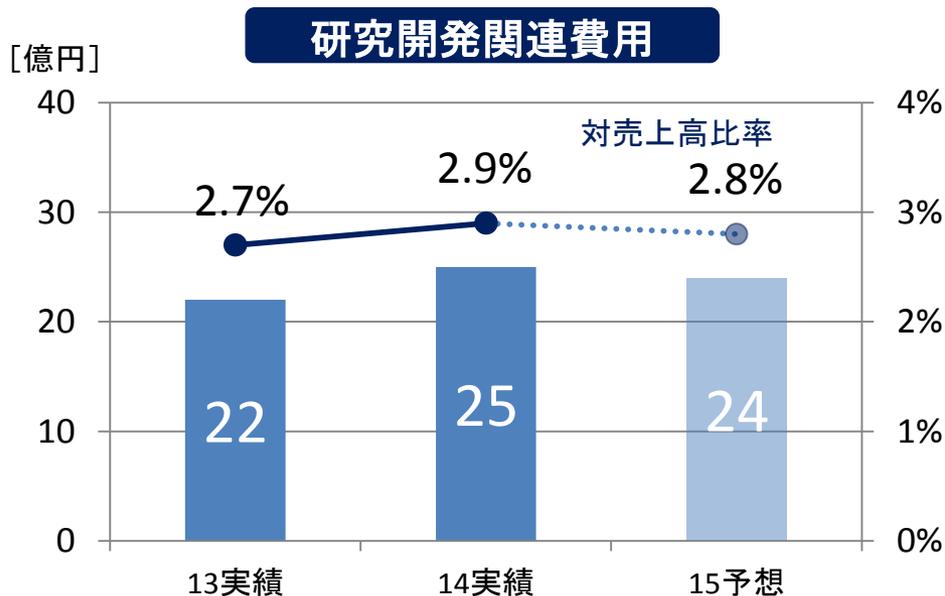
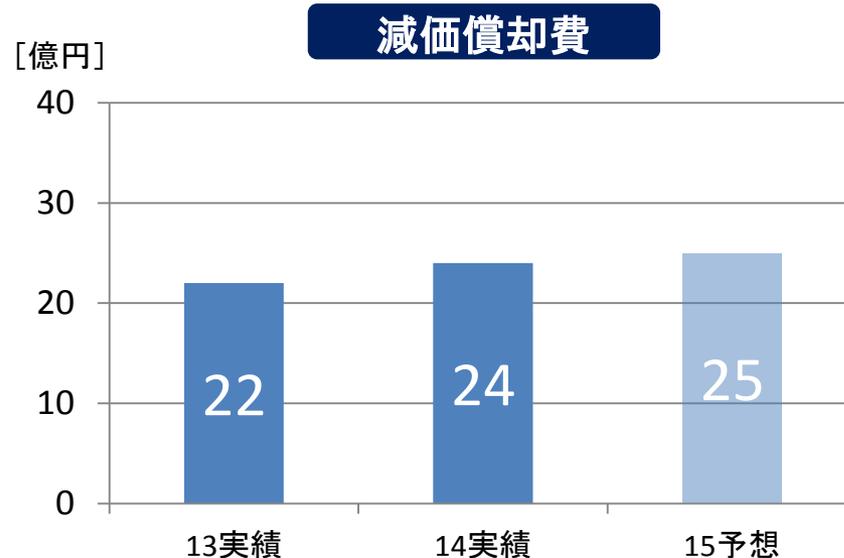
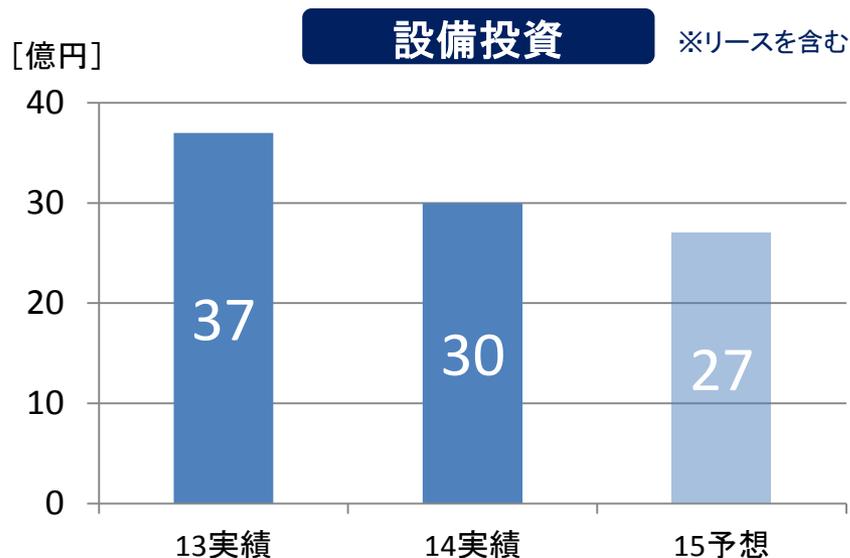
開発品（左）、従来品（中）、容器（右）

■ 日本放送協会(NHK)様とスーパーハイビジョン(8K)番組制作、 「22.2マルチチャンネル音響」音声収録・編集用デジタル音声卓「NT900」を共同開発

- スーパーハイビジョン(8K)に対応するために、トラックボールを使用した3次元パンニング(音像を定位させる機能)、「22.2マルチチャンネル音響」用モニター機能を追加しつつ、音声中継車で使用するため、試聴の妨げにならないように全高を従来機より低く致しました。
- 2011年秋に発売をスタートした音質、機能、デザイン、操作性、安全性のすべての部分にこだわったデジタル音声卓「NTシリーズ」の最高機種である「NT880」をベースに開発しました。22.2マルチチャンネル音響では膨大な回線数と、それを適切に処理できる能力の土壌をシリーズとして持ち得ていたことが、今回の共同開発においての強みとなりました。
- 電源の故障や障害発生時に、瞬時に予備系への運用切替えができ、予測不能な生放送中の障害に対しても安心できるという点も高く評価されています。



NHK様の中継車に設置された【NT900】



- #### 主な設備投資
- 電子部品: 車載関連生産設備増強
 - 電子化学: 生産設備増強
- #### 主な開発投資
- 電子化学材料 新素材関連
 - 車載用電子部品関連
 - 次世代デジタルワイヤレス関連
 - セミコン開発(酸化ガリウム)関連

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

